



第124回日本皮膚科学会総会
イブニングセミナー4

MINAR
ENING

2025

5.29

THU

17:40—18:40

第7会場

パシフィコ横浜 3階 303

エキスパートと考える

一歩ふみこんだ

酒皰の治療と スキンケア指導

■座長

山崎 研志 先生

ALOOP CLINIC & LAB 院長

■SEMINAR 1

酒皰の病態と治療戦略

～どのように赤みを攻略するか～

木村 有太子 先生

順天堂大学医学部 皮膚科学講座

■SEMINAR 2

酒皰に求められる

スキンケアとアゼライン酸

山本 晴代 先生

近畿大学病院皮膚科

美容皮膚科レーザーチームリーダー

第124回日本皮膚科学会総会/グラフィラボラトリーズ株式会社

GRAFA
LABORATORIES

SEM
EVE

■ SEMINAR 1

酒皰の病態と治療戦略 ～どのように赤みを攻略するか～

木村 有太子 先生

順天堂大学医学部 皮膚科学講座

酒皰は、紫外線や温度変化、精神的ストレス、食生活などの増悪因子が複雑に関与し発症すると考えられている。治療の第一歩は、増悪因子を特定し回避することであり、適切なスキンケアの指導も重要である。2022年には、丘疹膿疱型酒さに対する0.75%メトニダゾール外用薬（ロゼックス®ゲル）が保険適用となり、ガイドラインで推奨度Aとされた。一方、紅斑毛細血管拡張型にはレーザーやIPLによる治療が選択肢となるが、治療の選択肢は限られている。本講演では、ガイドラインに基づく治療戦略を概説するとともに、レーザー・IPLを用いた赤み治療についても症例を交えて紹介し、酒皰患者のQOL向上を目指す治療の可能性を探る。

■ SEMINAR 2

酒皰に求められるスキンケアとアゼライン酸

山本 晴代 先生

近畿大学病院皮膚科
美容皮膚科レーザーチームリーダー

酒皰の保険診療以外の治療法としてアゼライン酸外用薬があり、国内や海外のガイドラインにおいても丘疹膿疱型で主に炎症を伴った場合に治療選択肢の1つとして推奨されている。また、日々のスキンケアも酒皰の治療・維持療法として重要であり、患者の肌質や背景を考慮したスキンケア指導が必要となる。

本講演では、酒皰患者への治療と並行したスキンケア指導やそのポイントについて紹介する。また当院で施行した、グラファススキンケアエマルジョンAZの使用試験の症例を提示し、その活用方法や赤みをカバーすることによるQOL改善効果についても報告する。